

惡魔の證明と情報管理

市川浩

加計學園の獸醫學部新設を巡り、同學園の理事長と安倍首相との交友關係に疑義が生じ、さしも安定高支持率を誇りたる政權の根柢を揺るがすに至る。實際には贈收賄の事實や、結果として同學園が他の先發申請者を不當に排除しての新設認定の事實等は未だ見當らざるも、豫てよりの報道系の安倍憎しもありたるにや、恰もシーメンスの山本權兵衛、ロッキードの田中角榮兩總理に並ぶ世紀の大疑獄の如くに扱ふなんめる。その中心的論據は、前川喜平前文部科學事務次官による告發にして、和泉洋人首相補佐官より「總理は自分の口から言へないから私が代りに言ふ」とて、學部新設の早期進展を求められたりとし、和泉氏は言うたる覺えなしと、國會の閉會中審査にて互に應酬す。言明ありとする前川氏には物證「議事録」の類あり、是を無しとする和泉氏には惡魔の證明に物的證據なく、結論を得ずといへども、前川氏に半歩の利こそあらめ。一般讀者もありなむとす。

一方茲に驚愕の事實あり、南スーダンに派遣の自衛隊の日報問題これなり。報道は日報に記す「戦闘」の文字に派遣の違法性より始めて、日報それ自身の保管、更には防衛大臣の隱匿指示の有無を問題視せる記事を連日掲載す。遂に稻田防衛相は特別防衛監察を實施、自らも其の間取り調査に應じ、日報隱匿の指示認められずとの結論を得るも翌日辭任す。これにより日報問題は報道から消ゆるも、日報が當該事案の實施中に衆目の見る所となるてふ眞の問題點は遂に無視せらる。同じ一般行政官廳たる外務省に於ける在外公館よりの日々通信は隨時公開請求可能には非ざらまし。防衛省は「省」に昇格後日も淺く、或いは報道の批判もありけるにや、重要情報の管理體制確立未だしの感あるを如何せむ。

上記二件の事より考ふるに、惡魔の證明を補強せむと、何事も文書に遺すべしとならば、IT全盛の世の中、膨大の議事文書、録音データの類、管理不能のまゝ公式、私用を問はず凡ゆる業腦コンピュタに蓄積し、手も著くる能はざれば則ちハッカーハッカー偷簿者の好餌とならむ。又防衛省は今回の問題の後遺症とて、各種「日報」は廢棄も祕匿指定もまゝならず、更には平地に波瀾を求むる人々情報公開法に群がり、軍事情報は世界に筒抜けとならむ。かくては自衛隊は其の職務を全うし得るや、答は明らかかなり。前の大戦にて我が軍の暗號米軍の解讀する所大となり、戦局の不利掩ふべからずして遂に敗戦に至る。今日米露熾烈の諜簿戦スパイウォーに見る如く、情報の重要性十分に理解せらると雖も、最も基礎的の暗號理論など一般教養として教へらるゝこと少く、巨大データビッグに對する偷簿對策ハッキングも要路の人理解し得ざるを懼る。高額の銀行預金を詐取する最近の俺々詐欺など銀行記録情報データの密かなる漏洩をさへ疑はしむ。

かやうの狀況の中、電網空間にはこれらの問題を正面より論ずる向き寡ならず、恣意的世論操作を疑はるゝ報道系に一石を投ず。今回國會に喚問の元愛媛縣知事への質疑を通じ、十五年に亘る文部科學省の岩盤規制に對する挑戦の経緯明らかとなるも、一部報道系は「報道せざる自由」の權を驅使して前川氏の「行政に歪み」發言を主に採上ぐ。讀者これまでかゝる事情は知る由もなかりけるも、電網を通じて「詠み人知らぬ人はなし」とこそはなりにけれ。

口語の引用箇所表記は地の文に統一

(平成二十九年七月二十五日受附)

